

明治女医の基礎資料

三崎 裕子

北里大学一般教育部特別研究員

1884(明治17)年、明治政府は国の医療制度を整える過程において、女性に医術開業試験受験を許可し男性と同様の資格を与えることを認めた。そして周知のように、荻野吟子はその年に前期試験に合格、翌1885(明治18)年には後期試験に合格し、医籍登録された。ここに日本の近代的女性医師の歴史が始まった。

女性医師の登場は、当時の医療や社会に新たな局面を開き、また女性医師を継続的に輩出しようとする努力が、多くの人々、なかんずく当の女性医師の手によっても開始された。その結果、荻野吟子以後、明治末年までに日本国内で医籍に登録された女性医師は外国人を含めると約240名となった。女性の社会的地位が低く、また非常に不安定であった明治時代に、医師として働きながら社会に貢献した彼女らの存在は、医療史、女性史のみならず明治の社会を考える上でも、非常に重要な意味を持つ。

このような観点から、筆者は1996年の第97回日本医史学会総会一般口演「明治女医史の基礎的研究」¹⁾において明治時代に医師の資格を得た女性を概観する報告を行い、多川澄「先輩女医名簿」²⁾(以下、「多川名簿」と記す)を基に作成した「明治女医名簿」を資料として配布した。

「多川名簿」は近代日本の女医誕生50年を記念する事業としてまとめられ、荻野吟子から最後の医術開業試験による女性医師までをほぼ網羅する唯一の名簿である。しかし「多川名簿」には医籍登録年不明や人名の記載漏れと見られる事例も散見されるため、それをそのまま引き継いだ「明治女医名簿」は資料として多くの問題点を残すものであった。そこで以後、『官報』掲載の「医籍登録者」「医術開業試験合格者氏名」と「明治女医

名簿」を対照し、個々の事例について確認する作業を行い、なお若干の不明点は残すものの大方の確認作業が終了したので、ここに明治の女性医師の基礎資料として提示することにした。また本資料では不十分ながら、個々の女性医師の足跡をたどる作業によって、その活動状況をある程度俯瞰できるように試みた。なお、以下の記述では、女性医師を示す際は、当時の女性医師の一般的呼称である「女医」を用いることとする。

凡例)

① 資料は、「明治女医名簿」(第97回日本医史学会総会一般口演での配付資料:1996年)の氏名と登録年を、『官報』と対照して確認し、登録年月日に従って列記したものである。

『官報』調査は、「明治女医名簿」記載の氏名を、「医術開業試験前期試験・後期試験」「医籍登録者」について、それぞれ照合した。なお明治40年5月の後期試験以降は『官報』の試験結果が後期学科試験・後期実地試験に分けて記載されるようになったため、前期・後期学科・後期実地の3回の試験について照合した。

表中の氏名に付した◎は、一部、またはすべての試験合格は確認できたが、医籍登録の年月日が摘記できなかった者である。○は、すべての試験、医籍登録の確認ができなかったが、『日本杏林要覧』によって確認できた者、◇は、医籍登録は確認できたが、一部の試験についての合格の記載が確認できなかった者である。

「多川名簿」に記載されながら、試験、医籍登録ともに『官報』に掲載されない者は2名あったが、これらの氏名は欄外に記した。

また「多川名簿」に見えず、一連の作業を通し

て初めて氏名を確認できた者には、☆を付した。

② 以上の作業によって「明治女医名簿」の記載順を変更した。氏名は「医籍登録者」の官報の記載によるが、結婚などによる改姓があった場合は旧姓を()で、改名は(☆)で示した。

③ 生年は1909(明治42)年時点の各都道府県登録医師名をまとめた『日本杏林要覧』³⁾、刊行された伝記類、東京女子医科大学・大学史料室所蔵資料によった。

④ 本籍地は「多川名簿」、『官報』、『日本杏林要覧』を照合した。異同がある場合は、それを()で示した。

⑤ 出身校は「先輩女医名簿」,「日本女医会雑誌」記事、刊行された伝記類、東京女子医科大学・大学史料室所蔵資料等により判明するもののみ記した。また表記は以下の略称を用いた。

済生学舎→済生、日本医学校→日医、東京医学校→東医、東京女医学校→東女、女子医学研修所→女医研、大阪慈恵医院医学校→大慈、関西医学院→関医

⑥ 明治女医の活動状況を見るため、「明治年間」「1914(大正3)年」「1920(大正9)年」「1930(昭和5)年」「1937(昭和12)年」における各人の大凡の活動地を記した。活動地は『日本女医会雑誌』の会員動向に関する記事、「会員名簿」、同誌掲載の「日本女医五十年史」と、その作成のために1925(大正14)年から行われた「日本女医の経歴」に依拠するが、明治年間については『日本杏林要覧』からも摘記し(杏)として示した。

該当の年次は、主として『日本女医会雑誌』掲載の名簿、近況報告の調査年に依拠している。活動地の欄は、当時の道府県、市・郡単位で表記したが、具体的な病院名等がわかるものについては、その名称も記入した。東京市、大阪市については区部まで示した。また勤務医には(勤)、開業していることがわかるものには(開)と記し、該当年の資料がなくても前後の資料から継続的な活動地であると推測されるものには()の中にその地名を示した。

表1 明治女医の基礎資料

| | 氏名 | 生年 | 本籍地 | 出身校 | 登録年月 | 明治年間 | 1914(大正3)年 | 1920(大正9)年 | 1930(昭和5)年 | 1937(昭和12)年 |
|----|--------------|-----------------|--------|---------------|--------------|-----------------------|------------------|------------|---------------|-------------|
| 1 | 荻野吟子 | 1851 (嘉永04) | 埼玉 | 好壽院 | 1885(M18).12 | 東京市本所区(杏)、北海道瀬棚郡他 | 死去(1913) | | | |
| 2 | 生澤クノ | 1864 (元治01) | 埼玉 | 東亜医学校、済生 | 1887(M20).03 | 埼玉県入間郡(開)、大里郡(杏) | 埼玉県大里郡 | (埼玉県) | 栃木県足利市岩根病院(勤) | |
| 3 | 高橋 瑞 | 1852 (嘉永05) | 愛知 | 済生 | 1887(M20).12 | 東京市日本橋区(開)(杏) | 廃業 | | 死去(1927) | |
| 4 | 本多セン | 1864 (元治01) | 静岡(埼玉) | 成医会 | 1889(M22).07 | 慈恵病院(勤)、フェリス女学院講師他 | 廃業 | | 死去(1922) | |
| 5 | 岡見 京 (西田) | 1859 (安政06) | 東京 | ペンシルバニア女子医科大学 | 1890(M23).01 | 慈恵病院(勤)、衛生園設立 | 廃業 | | | |
| 6 | 飯島リウ (設楽) | 1865 (慶応01) | 群馬 | 済生 | 1890(M23).01 | 山梨県甲府市(杏) | 東京市本所区(開) | | 死去(1919) | |
| 7 | 村上 厳 | 1864 (元治01) | 岐阜 | 済生 | 1891(M24).04 | 順天堂で研修、岐阜県養老郡(杏) | 岐阜県養老郡(開)、11校で校医 | | | |
| 8 | 菱川ヤス | | 神奈川 | 外国医学校 | 1891(M24).04 | | | | | |
| 9 | 問宮八重 | 1866 (慶応02) | 東京 | 済生 | 1891(M24).04 | 東京市本郷区、北海道十勝郡(開) | 北海道十勝郡(開) | 北海道十勝郡(開) | 北海道十勝郡(開) | 北海道十勝郡(開) |
| 10 | 丸茂ムネ (探査) | 1869(M02) | 岐阜 | 済生 | 1891(M24).07 | 東京市下谷区(開)(杏) | 東京市下谷区(開) | (東京市下谷区・開) | (東京市下谷区・開) | |
| 11 | 賀川テツ (山本) | 1866 (慶応02) | 東京(山形) | 済生 | 1891(M24).08 | 順天堂で研修・東京市日本橋区(杏) | 東京市日本橋区(開) | | 東京市荏原郡目黒町(開) | 病氣療養中 |
| 12 | 武生房栄 (采澤) | 1867 (慶応03) | 滋賀(福井) | 済生 | 1891(M24).11 | 福井県敦賀郡(杏) | | | (福井県敦賀郡) | |
| 13 | 千坂多計◎ | | 島根 | 済生 | 1891(M24)- | | | | | |
| 14 | 伴 ハル | | 石川 | 済生 | 1892(M25).03 | 東京市(開)・福島県西白河郡(杏) | 福島県西白河郡(開) | | 福島県西白河郡 | |
| 15 | 本田ナミ (水沼) | 1870(M03) | 栃木 | 済生 | 1892(M25).03 | 東京市養育院で実習、神奈川県横須賀市(杏) | 神奈川県横須賀市(開) | | (神奈川県横須賀市・開) | |
| 16 | 大丸古宇 | 1864 (元治01)? | 神奈川 | 済生 | 1892(M25).05 | 神奈川県三浦郡(杏) | 神奈川県三浦郡 | | | 死去 |

| | 氏名 | 生年 | 本籍地 | 出身校 | 登録年月 | 明治年間 | 1914(大正3)年 | 1920(大正9)年 | 1930(昭和5)年 | 1937(昭和12)年 |
|----|---------------|-----------------|------------------|-------------------------------|--------------|--|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 17 | 山崎 歌 (日野) | | 群馬 | 済生 | 1892(M25).06 | 千葉県朝夷郡で 診療活動 | 東京市四谷区 (開) | | 千葉県朝夷郡 (開) | |
| 18 | 加藤 ミネ (中野) | 1871(M4) | 福島 | 済生 | 1892(M25).10 | 東大小児科見 学生、福島県若松 市・大坂(開) | (大阪市西区) | | 大阪市西区(開) | 死去(1936) |
| 19 | 鼓 千代 (柏木) | 1869(M02) | 神奈川(広 島) | 済生 | 1892(M25).11 | 広島県深安郡 (杏) | | | 広島県福山市 (開) | |
| 20 | 藤田ミツ (丸橋) | | 東京 | 好壽院 | 1892(M25).11 | 中国・上海英国 租界(開) | 中国・北京 | | | |
| 21 | 江間調子 (久田) | 1873(M06) | 愛知 | 済生 | 1893(M26).02 | | 愛知県名古屋 | | | |
| 22 | 吉岡弥生 (鷺山) | 1871(M04) | 静岡 | 済生 | 1893(M26).05 | 東京女医学校校 長、東京市麹町 区・牛込区(開) (杏) | 東京女子医学専 門学校校長、東 京市牛込区(開) | 東京女子医学専 門学校校長、東 京市牛込区(開) | 東京女子医学専 門学校校長、東 京市牛込区(開) | 東京女子医学専 門学校校長、東 京市牛込区(開) |
| 23 | 三浦 享 (村岡) | 1872(M05) | 長野 | 済生 | 1893(M26).07 | 愛知県寶飯郡 (開)(杏) | 愛知県寶飯郡 (開) | | 愛知県寶飯郡 (開) | |
| 24 | 菅沼メリー ☆ | 1862 (文久02) | 米国(大阪・ 長崎・徳島) | クリーブ ランド・ホメ オパチー医 学校 | 1893(M26).09 | 長崎県長崎市・ 開(杏) | | | | |
| 25 | 横瀬ツギ (岡部) | 1865 (慶応01) | 福井 | 済生 | 1894(M27).03 | 茨城県新治郡 (杏) | 茨城県 | 死去(1920) | | |
| 26 | 吉田ケン | 1868(M01) | 群馬 | 済生 | 1894(M27).03 | 東京市京橋区 (開)(杏) | 東京市京橋区 (開)(杏) | (東京市京橋区・ 開) | (東京市京橋区・ 開) | |
| 27 | 中村 径 | | 岡山 | 済生 | 1894(M27).03 | | | | | |
| 28 | 大村乃夫 (加賀見) | 1867 (慶応03) | 山梨 | 済生 | 1894(M27).05 | 東京市深川区 (開)(杏) | 東京市下谷区 | | 神奈川県鎌倉 | |
| 29 | 前田 園 | | 東京 | 済生 | 1894(M27).05 | 朝鮮・漢城病院 (勤)、神奈川 高座郡・南湖 院(勤)、日本女 子大校医 | 日本女子大校 医・開(東京)、 日本女医会初代 会長 | | | |
| 30 | 井上あい | 1869(M02) | 埼玉 | 済生 | 1894(M27).08 | 埼玉県北足立郡 (杏) | 埼玉県北足立郡 | | | |
| 31 | 福井 繁 | 1874(M07) | 岡山 | 済生、マール ブルク大 学 | 1894(M27).08 | 大阪市東区開 (杏)、ドイツ留 学 | 大阪市(開) | | | |
| 32 | 中原 蓬 | 1873(M06) | 山口 | 済生 | 1894(M27).08 | 山口県大津郡 (杏) | 山口県下関市 (開) | | 山口県大津郡 (開) | 山口県大津郡 (開) |
| 33 | 赤尾つる (天田) | 1873(M06) | 福島 | 済生 | 1894(M27).09 | 順天堂(勤)、 東京市日本橋区 (開)・京橋区 (杏) | | | 東京市四谷区 | |
| 34 | 伊藤房野 | | 岐阜 | 済生 | 1895(M28).02 | 岐阜県羽島郡 (杏) | 岐阜県羽島郡 | | | 死去 |
| 35 | 高田モト | 1868(M01) | 東京 | 済生 | 1895(M28).05 | 東京市日本橋区 (開)(杏) | 東京市日本橋区 (開) | | 死去(1921) | |
| 36 | 小出美禰 (中村) | 1871(M04) | 千葉 | 済生 | 1895(M28).07 | 千葉県夷隅郡 (杏) | 千葉県夷隅郡 (開) | | | |
| 37 | 伊藤サタ◎ | | 愛知 | 済生 | 1895(M28)ー | | | | | |
| 38 | 右田アサ | | 島根 | 済生 | 1896(M29).06 | 東京駿河台井上 病院実習 | 死去(1898) | | | |
| 39 | 乾ヤエノ (増野) | 1869(M02) | 徳島 | 済生 | 1896(M29).09 | 島根県鹿足郡 (杏) | | | | |
| 40 | 新名タミ (岡?) | 1868(M01) | 愛媛(香川) | 済生 | 1897(M30).01 | 香川県大川郡 (杏) | | | | |
| 41 | 内田美津 (美甘) | 1867 (慶応03) | 静岡(岡山) | 済生 | 1897(M30).04 | 静岡県浜名郡 (杏) | 静岡県浜松市 | | | |
| 42 | 松本タカ (山家) | 1878(M11) | 新潟 | 済生 | 1897(M30).04 | 新潟県長岡病院 (勤)、三島郡 (開)・長岡市 (杏) | | | (山形県米沢市) | |
| 43 | 横山ジュン | 1872(M05) | 兵庫 | 済生 | 1897(M30).07 | 東大小児科見 学生、兵庫県揖 保郡(杏) | 兵庫県揖保郡 | (兵庫県揖保郡) | 兵庫県揖保郡 (開) | |
| 44 | 市川田鶴 (中村?) | 1868(M01) | 東京 | 済生 | 1897(M30).09 | 東京市深川区 (杏) | 東京市深川区 | (東京市深川区) | 東京市深川区 | |
| 45 | 鈴木ケイ | | 静岡 | 済生 | 1897(M30).10 | | 大阪、浜松(勤) | | 静岡県安倍郡 | |
| 46 | 堀 キン | | 滋賀 | 済生 | 1897(M30).11 | | 滋賀県 | (滋賀県) | | |
| 47 | 小川 敏 (若山) | 1874(M07) | 群馬 | 済生 | 1898(M31).01 | 東京市浅草区 (杏) | 東京市浅草区 (開) | (東京市浅草区・ 開) | 東京市浅草区 (開) | |
| 48 | 新海登美☆ | 1868(M01) | 山梨 | | 1898(M31).03 | 東京市神田区 (杏) | | | | |
| 49 | 奥村美知恵 (渡辺) | 1869(M02) | 岐阜 | | 1898(M31).04 | 岐阜県可児郡 (杏) | | | | |
| 50 | 阿部ハナ | 1866 (慶応02) | 神奈川 | 外国医学校 | 1898(M31).04 | 神奈川県横浜市 (杏) | | | | |
| 51 | 須藤カク | 1861 (文久01)? | 青森 | 外国医学校 | 1898(M31).04 | 神奈川県横浜市 (杏) | | | | |
| 52 | 萩谷清江 (藤村) | 1875(M08) | 大阪 | 済生 | 1898(M31).09 | 大阪市南区(杏) | | | | |
| 53 | 久保サチ△ | 1876(M09) | 愛媛 | 済生 | 1898(M31)ー | 愛媛県温泉郡 (杏) | | | | |

| | 氏名 | 生年 | 本籍地 | 出身校 | 登録年月 | 明治年間 | 1914(大正3)年 | 1920(大正9)年 | 1930(昭和5)年 | 1937(昭和12)年 |
|----|-----------------|-----------|---------|--------------|---------------|---------------------------------|---------------|----------------|---------------|-------------|
| 54 | 坂本ヤツ | 1877(M10) | 福島 | 済生 | 1899(M32).03 | 栃木県足利郡(杏) | 済生会診療班 | (済生会診療班) | 済生会診療班 | 済生会診療班 |
| 55 | 大櫻登喜子 (慶応02) | 1866 | 兵庫 | 済生 | 1899(M32).06 | 兵庫県神戸市(杏) | | | 死去(1928) | |
| 56 | 中村 唯 (字良田) | 1873(M06) | 熊本 | 済生, マールブルク大学 | 1899(M32).06 | 伝染病研究所, 東京市神田区(杏), ドイツ留学 | 中国・天津(開) | (中国・天津開) | 中国・天津(開) | 死去・東京(1936) |
| 57 | 石坂レン | | 新潟 | 済生 | 1899(M32).06 | 神奈川県高座郡, 南湖院副長 | 死去(1904) | | | |
| 58 | 鳥取アイ | 1873(M06) | 岡山 | 済生 | 1899(M32).11 | 岡山県苫田郡(杏) | | | | |
| 59 | 浅海コト | 1868(M01) | 山口 | 済生 | 1899(M32).11 | 山口県玖珂郡(杏) | 朝鮮釜山(開) | (朝鮮釜山・開) | (朝鮮釜山・開) | |
| 60 | 神谷キク (神代・野間) | 1874(M07) | 長崎 | | 1899(M32).12 | 兵庫県神戸市(杏) | 兵庫県神戸市(開) | (兵庫県神戸市・開) | 兵庫県神戸市(開) | |
| 61 | 河野桃野 | 1875(M08) | 広島 | 済生 | 1900(M33).01 | 東大小児科見学生, 東洋内科医院(勤), 神奈川県高座郡(杏) | (神奈川県高座郡・南湖院) | 神奈川県高座郡・南湖院 | (神奈川県高座郡・南湖院) | |
| 62 | 新堀みよ (小林?) | 1876(M09) | 富山(東京?) | | 1900(M33).04 | 富山県富山市(杏) | | | | |
| 63 | 村田ミツ | 1874(M07) | 山梨 | | 1900(M33).04 | 山梨県甲府市(杏) | 死去 | | | |
| 64 | 高橋ユウ (塚原) | 1879(M12) | 岐阜(新潟) | 済生 | 1900(M33).07 | 朝鮮京城(宮内府待医), 東京市本郷区(杏) | (朝鮮・大邱(1916)) | | | |
| 65 | 中島ふさ◇ | 1868(M01) | 愛知 | | 1900(M33).06 | 愛知県知多郡(杏) | | | | |
| 66 | 岩浅ワキ | 1873(M06) | 徳島 | | 1900(M33).06 | 大阪府三島郡(杏) | 大阪府下三島郡 | | 死去(1922) | |
| 67 | 前島ケイ (今村) | | 東京 | | 1900(M33).06 | 宮城県牡鹿郡(杏) | 中国浙江省日文字校校医 | | | |
| 68 | 吉岡タダ | | 山梨 | | 1900(M33).09 | | | | | |
| 69 | 木下奈美 (太田) | 1868(M01) | 兵庫 | 済生 | 1900(M33).09 | 東京府北豊島郡(杏) | | (シンガポール(1922)) | 東京市南多摩郡八王子 | |
| 70 | 松尾チヨ (相川?) | 1874(M07) | 山口 | 大慈, 済生 | 1901(M34).02 | 山口県佐波郡(杏) | 朝鮮・大邱(開)1916 | 山口県能毛郡 | 山口県能毛郡 | |
| 71 | 尾崎ミツ | | 愛知 | | 1901(M34).02 | | | | | 死去 |
| 72 | 中村キク | 1868(M01) | 埼玉 | 済生 | 1901(M34).02 | 東京市(開), 北埼玉郡(杏) | 埼玉県中条村(開) | | | |
| 73 | 駒井たけへ (巽?) | 1880(M13) | 奈良 | 大慈 | 1901(M34).02 | 奈良県山辺郡(杏) | | | | 死去 |
| 74 | 篠田せい | 1876(M09) | 新潟 | 済生 | 1901(M34).02 | 東大小児科受講, 東京市本郷区(開)(杏) | (東京市本郷区・開) | (東京市本郷区・開) | | |
| 75 | 近藤キシヨ | 1878(M11) | 広島 | 済生 | 1901(M34).02 | 広島県双三郡(杏) | 広島県萩原村(開) | 死去(1925) | | |
| 76 | 細井八重 | 1871(M04) | 茨城 | 済生 | 1901(M34).10 | 茨城県北相馬郡(杏) | 茨城県相馬郡 | (茨城県北相馬郡) | 茨城県相馬郡 | |
| 77 | 細井シゲ | | 茨城 | | 1901(M34).10 | | | | | 死去 |
| 78 | 高野 直 | 1880(M13) | 富山 | 済生 | 1901(M34).10 | 神奈川県高座郡・南湖院(勤), 富山県富山市(開)(杏) | | | | |
| 79 | 説田テル (鈴木?) | 1879(M12) | 愛知 | | 1901(M34).10 | 愛知県丹羽郡(開)・名古屋(杏) | 愛知県丹羽郡(開) | (愛知県丹羽郡・開) | 愛知県丹羽郡(開) | |
| 80 | 太田繁子 | 1870(M03) | 愛知 | 済生 | 1901(M34).10 | 神奈川県横浜市(杏) | 神奈川県横浜市(開) | (神奈川県横浜市・開) | (神奈川県横浜市・開) | |
| 81 | 近藤小はる (朝枝) | 1880(M13) | 岡山 | 大慈 | 1901(M34).10 | 岡山県岡山市(杏) | 岡山県(開)1916 | | | |
| 82 | エステー・ ナッグス | 1841 | 米国 | | <1903(M36).3> | 兵庫県神戸市(杏) | | | | |
| 83 | 中島富く (敷島?)◇ | | 長野(東京) | | 1903(M36).04 | | | | | |
| 84 | 大八木ゆき | 1872(M05) | 東京 | 済生 | 1903(M36).04 | 東京市日本橋区(開)(杏), 東洋女芸学校教員 | 東京市下谷区上野 | | | |
| 85 | 岡村マツ (上杉) | 1873(M10) | 宮崎 | 済生 | 1903(M36).04 | 宮崎県東臼杵郡(杏) | 宮崎県日向郡 | | 死去(1921) | |
| 86 | 安達みち☆ | 1876(M09) | 岡山(千葉) | | 1903(M36).04 | 千葉県印旛郡(杏) | | | | |
| 87 | 幣原 節 | 1884(M17) | 大阪 | 大慈 | 1903(M36).04 | 東大小児科見学生, 大阪府北河内郡 | 大阪府河内(開) | | | 兵庫県神戸市(開) |
| 88 | 鈴木瀧野 (河村・河野) | 1882(M15) | 志賀 | 大慈 | 1903(M36).04 | 滋賀県蒲生郡(杏) | 大阪府大阪市(開) | | 滋賀県甲賀郡 | 死去 |
| 89 | 白石すて | 1877(M10) | 群馬 | 済生, 女医研 | 1903(M36).11 | 群馬県邑楽郡(杏) | 群馬県邑楽郡 | (群馬県邑楽郡) | 群馬県邑楽郡 | |
| 90 | 福井 栄 | 1878(M11) | 岡山 | 大慈 | 1903(M36).11 | 大阪府南区(杏) | 大阪府大阪市 | | | |
| 91 | 小野 安 | 1883(M16) | 高知 | 大慈 | 1903(M36).11 | 高知県幡豆郡(杏) | 兵庫県(開) | (福岡県・研修1916) | | |

| | 氏名 | 生年 | 本籍地 | 出身校 | 登録年月 | 明治年間 | 1914(大正3)年 | 1920(大正9)年 | 1930(昭和5)年 | 1937(昭和12)年 |
|-----|------------------------------|------------|--------|----------------------|--------------|-----------------------------------|------------------------|----------------------------|----------------|-------------|
| 92 | 河村 悦 | 1871(M04) | 愛知 | 済生, 女医研 | 1903(M36).11 | 京都府京都市(杏) | 京都府京都市(開) | (京都府京都市・開) | 京都府京都市(開) | |
| 93 | 大井キヨエ | 1878(M11) | 山形 | | 1903(M36).11 | 山形県飽海郡(杏) | 山形県飽海郡 | (山形県飽海郡) | | |
| 94 | 井上トモ | 1870(M03)? | 福岡 | クリューブランド医大・ミシガン大学医学部 | 1903(M36).11 | 学習院女子部等校医・東京市麹町区(杏) | 東京市麹町区(開) | (東京市麹町区・開), 万国女医学会出席(1919) | (東京市麹町区・開) | (東京市麹町区・開) |
| 95 | 吉田千代 | 1871(M04) | 新潟 | | 1904(M37).06 | 神奈川県三浦郡(杏) | | | | |
| 96 | 中村アイ | 1872(M05) | 広島 | 済生, 女医研 | 1904(M37).06 | 東洋内科医院(勤) | 死去 | | | |
| 97 | 村上コト(中川?) | 1882(M15) | 大阪 | 大慈 | 1904(M37).06 | 大阪市東区(杏) | 大阪府大阪市(開) | | 大阪府大阪市(開) | |
| 98 | 福岡はる | 1877(M10) | 島根 | 大慈, 関医 | 1904(M37).06 | 東大小児科見学生, 島根県安濃郡(開)(杏) | 島根県安濃郡(開) | | 島根県安濃郡(開) | |
| 99 | 小川俊子(越智) | 1879(M12) | 福島 | 済生, 日医 | 1904(M37).06 | 長野県下高井郡(杏) | | | | |
| 100 | 沖本幸 | 1873(M06) | 高知 | 済生 | 1904(M37).06 | 神奈川県鎌倉郡(開) | 神奈川県鎌倉郡(開) | | | 死去 |
| 101 | 鶴野恵美(村田・郷田) | 1883(M16) | 徳島(滋賀) | 大慈 | 1904(M37).06 | 香川県綾歌郡(杏) | | 香川県綾歌郡 | 香川県綾歌郡 | |
| 102 | 上羽志満 | 1869(M02) | 京都 | 大慈 | 1904(M37).06 | 京都府加佐郡(杏) | | | 京都府加佐郡(開) | |
| 103 | 柳沢 米 | 1873(M06) | 群馬 | カリフォルニア大学医学部 | 1904(M37).06 | 東京市麹町区(杏) | 東京市麹町区 | | 東京市牛込区 | |
| 104 | 谷本 薫 | | 兵庫 | 大慈, 関医 | 1904(M37).06 | 兵庫県津名郡(淡路島) | 大阪府 | | | 兵庫県津名郡 |
| 105 | マーガレット・エンマ・オズボーン・クリヴァー・パーロット | 1862 | 英国 | | 1904(M37).06 | 兵庫県神戸市(杏) | | | | |
| 106 | 花谷保江(保枝) | 1881(M14) | 奈良 | 大慈 | 1904(M37).09 | 奈良県吉野郡(杏) | 和歌山県伊都郡 | | | |
| 107 | 田中シヅ(坂本) | 1880(M13) | 福島 | 済生 | 1904(M37).09 | 埼玉県入間郡(杏) | | | | |
| 108 | 大政稲野 | 1881(M14) | 愛媛 | 済生, 女医研 | 1904(M37).09 | 神戸坂元病院(勤)・兵庫県神戸市(杏) | 兵庫県神戸市(開) | (兵庫県神戸市・開) | (兵庫県神戸市・開) | |
| 109 | 合田成尾 | 1880(M13) | 京都 | 関医 | 1904(M37).09 | 京都府上京区(杏) | 京都足立産婦人科(勤), 京都府京都市(開) | (京都府京都市・開) | 京都府京都市(開) | |
| 110 | 藤村玉江(秋谷) | 1884(M17) | 大阪(京都) | 大慈, 関医 | 1904(M37).11 | 大阪市南区(杏) | 大阪府大阪市 | | | |
| 111 | 河越まさよ◇ | 1875(M08) | 鳥取 | | 1905(M38).04 | 大阪市西区(杏) | | | | 死去 |
| 112 | 高橋ス井◇ | 1882(M15) | 新潟 | 日医 | 1905(M38).04 | 新潟県新潟市(杏) | 神奈川県 | | | |
| 113 | 日下サキ | | 福島 | | 1905(M38).05 | 死去(1908) | | | | |
| 114 | 山内ヨ子☆ | | 福島 | | 1905(M38).05 | 福島県若松市(杏) | | | | |
| 115 | 富山やす | 1872(M05) | 大阪 | 大慈 | 1905(M38).07 | 三重県阿山郡(杏) | 三重県阿山郡 | (三重県阿山郡) | 三重県阿山郡 | 死去 |
| 116 | 水江シヅ(北村) | 1884(M17) | 山口 | 関医, 女医研, 日医 | 1905(M38).07 | 東大整形外科介補, 日本医学校第二診療所主任, 東京市本郷区(杏) | | | 神奈川県横浜市 | |
| 117 | 三上 鶴 | | 長野 | 済生, 女医研 | 1905(M38).07 | 東京子備病院(勤) | 愛知県幡豆郡西尾病院(勤) | | | 死去 |
| 118 | 三谷志げ | 1879(M12) | 三重 | 大慈, 済生, 女医研 | 1906(M39).01 | 東京市本郷区(杏) | | | 東京府南多摩郡稲城(開) | |
| 119 | 高橋喜代 | 1872(M05) | 宮城 | | 1906(M39).01 | 東京市本郷区(杏)・福島県伊達郡(杏) | | | 福島県伊達郡 | |
| 120 | 橋 薫 | 1874(M07) | 大阪 | 大慈, 関医 | 1906(M39).01 | 大阪緒方病院で研修, 大阪市東区(杏) | | | 大阪市東区 | |
| 121 | 丹羽美智 | 1883(M16) | 三重 | 大慈 | 1906(M39).01 | 大阪・神戸で研修(開), 兵庫県神戸市(杏) | 三重県津市 | (三重県津市) | 三重県津市 | |
| 122 | エンマー・アサリア・パリン | 1871 | 米国 | | 1906(M39).03 | 兵庫県神戸市(杏) | | | | |
| 123 | 早坂チカ | 1879(M12) | 北海 | 東女医, 女医研, 東医 | 1906(M39).07 | 北海道函館(開), 東京市本郷区(杏) | 北海道函館(開業準備) | | | |
| 124 | 中山きん | 1877(M10) | 石川 | 日医 | 1906(M39).07 | 石川県鹿島郡(杏) | | 石川県鹿島郡七尾町(開) | 石川県鹿島郡七尾町(開) | |
| 125 | 久恒静枝 | | 大分 | 大慈, 関医, 日医 | 1906(M39).07 | | 兵庫県武庫郡 | 東京市豊多摩郡渋谷村 | 東京婦人共立育児会病院(勤) | |

| | 氏名 | 生年 | 本籍地 | 出身校 | 登録年月 | 明治年間 | 1914(大正3)年 | 1920(大正9)年 | 1930(昭和5)年 | 1937(昭和12)年 |
|-----|-------------------|------------------------|--------|------------------|--------------|--|-----------------------|--------------------|--------------------------|--------------------------|
| 126 | 油川太嘉 | 1879(M12) | 滋賀 | 大慈, 関医, 日医 | 1906(M39).07 | 東大衛生学教室 研究生, 日本医 学校第二診療所 主任, 東京市芝 区(杏) | 死去(1911) | | | |
| 127 | 田中ふさ (平沢) | 1883(M16) | 長野 | 東女医, 女 医研, 東医 | 1906(M39).07 | 愛知県碧海郡 (杏) | 愛知県幡豆郡西 尾病院 | (愛知県幡豆郡 西尾病院) | 愛知県幡豆郡西 尾病院 | |
| 128 | 石津静衛 | | 広島 | | 1906(M39).10 | | | | | |
| 129 | 眞中すゝ | 1881(M14) | 群馬 | 済生, 日医 | 1906(M39).11 | 東京市倉敷病院 (勤), 群馬県前 橋町(開)(杏) | 群馬県前橋町 (開) | (群馬県前橋市・ 開) | 群馬県前橋町 (開) | 群馬県前橋町 (開) |
| 130 | 伊藤 照 | 1882(M15) | 愛知 | 女医研, 東 医 | 1906(M39).11 | 東大小児科見 学生, 愛知県名 古屋市(開)(杏) | 愛知県名古屋 (開) | | | |
| 131 | 今村ウタ | 1882(M15) | 福岡(熊本) | 日医 | 1907(M40).01 | 京都市佐伯病院 (勤)・福岡県朝 倉郡(杏) | 京都府京都市 | | (鹿児島県鹿児 島市) | |
| 132 | 大塚咲恵 | | 熊本 | | 1907(M40).02 | | | | | |
| 133 | 油田フジ (越沼) | 1865(M19) | 栃木 | | 1907(M40).03 | 茨城県東茨城郡 (杏) | | | | 死去 |
| 134 | 仁保澄江 (二宮) | 1884(M17) | 兵庫 | 女医研, 東 医, 日医 | 1907(M40).03 | 京都医科大小 児科研究生・兵 庫県武庫郡(杏) | 神奈川県(開) | | | |
| 135 | 正井スミ (中山) | 1884(M17) | 香川 | 大慈, 関医 | 1907(M40).04 | 香川県丸亀市 (杏) | | | (京都府京都市) | |
| 136 | 岡田津る | 1873(M06) | 岐阜 | 女医研, 日 医 | 1907(M40).05 | 広島県双三郡 (杏) | | | | 死去 |
| 137 | 田添ヨシ (玉川) | 1873(M06) | 大分 | 日医 | 1907(M40).10 | 大分県北海部郡 (杏) | 中国・天津 | 中国・濱港東亜 重工業(勤) | 東京府下豊玉郡 杉並 | |
| 138 | 木村ヨノ (玉川) | 1879(M12) | 福島 | 済生, 日医 | 1907(M40).11 | 福島県南会津郡 (杏) | 東京市牛込区 (開) | | 東京市牛込区 (開) | 死去(1936) |
| 139 | 林 イワ 香 | 1876(M09) 1875(M08) | 山口 | 東女医, 日 医 | 1907(M40).12 | 東大小児科見 学生, 山口県下 関市・豊浦郡 (杏) | 山口県下関市, 長門市(開) | | 死去(1921) | |
| 140 | 笠原小丈 (高橋) | 1882(M15) | 山梨 | 女医研, 日 医 | 1907(M40).12 | 東大小児科見 学生, 東京市小 石川区(杏) | 東京市牛込区 (開) | | | |
| 141 | 采ネトク | | 滋賀 | 日医 | 1908(M41).01 | 滋賀県高島郡 (杏) | | 滋賀県高島郡 | | 死去 |
| 142 | 春日カネヲ (左座) | | 福岡 | 日医 | 1908(M41).02 | 福岡県(杏) | | | 福岡県吉良郡 | 福岡県吉良郡 (1937) |
| 143 | 池田トクヨ (小早川) | | 広島 | 日医 | 1908(M41).03 | 石川県金沢市, 婦人共立育児会 病院(勤)(東京 市), 広島県 (杏) | 石川県金沢市 | 石川県金沢市 | | |
| 144 | 平山愛子 (桑原りゅうほう) | 1883(M16) | 群馬 | 女医研, 東 医, 日医 | 1908(M41).03 | 東京市下谷区 (杏) | | 死去(1918) | | |
| 145 | 山尾うら | 1882(M15) | 静岡 | 東女医, 日 医 | 1908(M41).03 | 東京婦人共立 育児会病院(勤), 東京市本郷区 (杏) | 死去 | | | |
| 146 | 竹内茂代 (井出) | 1881(M14) | 長野 | 東女医 | 1908(M41).03 | 東京至誠病院 (勤), 東京市牛 込区(杏) | 東京市四谷区 | | 東京市四谷区 | 東京市四谷区 |
| 147 | 大村チヨ (堀?)◇ | | 大阪 | | 1908(M41).03 | 大阪府泉南郡 (杏) | | | | |
| 148 | 内田 松 (暗江) | | 岡山 | 日医 | 1908(M41).06 | 岡山県(杏) | 岡山県・兵庫 県武庫郡(開) | | | |
| 149 | 高須いま | 1885(M18) | 愛知 | 女医研, 日 医 | 1908(M41).07 | 東京市本郷区 (杏) | | | 愛知県幡豆郡一 色村 | |
| 150 | 中川だい | 1885(M18) | 兵庫 | 大慈, 東女 医 | 1908(M41).07 | 東京至誠病院 (勤), 東京市牛 込区(杏) | 兵庫県揖西郡 (開) | (兵庫県揖西郡・ 開) | (兵庫県揖西郡・ 開) | |
| 151 | 緒方トキ (諸石) | 1865(M19) | 佐賀 | 日医 | 1908(M41).11 | 佐賀県杵島郡 (杏) | | | | |
| 152 | 原 トリ (道子*) | 1879(M12) | 熊本 | 東女医, 日 医 | 1908(M41).12 | 熊本県鹿本郡 (杏) | 熊本県鹿本郡 | | | 死去 |
| 153 | 島峰イチ (菅野) | 1886(M19) | 福島 | 日医 | 1908(M41).12 | 東京市小石川 区, 福島県(杏) | 東京市日本橋 | | 東京市京橋区 | |
| 154 | 川崎とも | 1881(M14) | 静岡 | 日医 | 1908(M41).12 | 静岡県榛原郡 (杏) | 朝鮮・京城(開), 愛知県, 東京市 | | (東京府豊多摩 郡代々木・開) | |
| 155 | 杉田津る | 1882(M15) | 東京 | 関医, 日医 | 1909(M42).01 | 東大小児科見 学生・介補, 東京 市本郷区(杏) | 東京市湯島(開), 東大小児科 | 東京市湯島(開), 東大小児科 | 東京市本郷区 (開), 東大小児 科 | 東京市本郷区 (開), 東大小児 科 |
| 156 | 林うめゑ (桑原) | | 宮城 | 女医研, 日 医 | 1909(M42).01 | 宮城県(杏) | | 兵庫県 | 徳島県徳島市 | |
| 157 | 菊地エイ | 1881(M14) | 宮崎 | 済生, 女医 研, 日医 | 1909(M42).03 | 東京市本郷区 (杏) | 福岡県門司市 (開) | (福岡県門司市・ 開) | 福岡県門司市 (開) | |
| 158 | 高橋ミヤ (土岐) | | 岩手 | 東医 | 1909(M42).03 | 岩手県, 神奈川 県高座郡・南湖 院 | 神奈川県高座郡 茅ヶ崎南湖院 | | 神奈川県高座郡 茅ヶ崎南湖院 | |
| 159 | 宮田くに (昌子*) | 1889(M22) | 愛知 | 東医, 日医 | 1909(M42).05 | 東京市牛込区 (杏) | | 赤坂区溜池平和 医院 | | |

| | 氏名 | 生年 | 本籍地 | 出身校 | 登録年月 | 明治年間 | 1914(大正3)年 | 1920(大正9)年 | 1930(昭和5)年 | 1937(昭和12)年 |
|-----|----------------|----------------|--------|--------------|--------------|--------------------------------|-------------------------------|---------------|---------------|-------------|
| 160 | 木坂ユク (富原) | 1889(M22) | 広島 | 東女医 | 1909(M42).06 | 静岡県多々良病院(勤), 広島県(開), 東京市牛込区(杏) | 広島県賀茂郡(開) | (広島県賀茂郡(開)) | 広島県賀茂郡(開) | 広島県賀茂郡(開) |
| 161 | 狭間ヌイ | 1879(M12) | 大分 | 済生, 女医研, 東女医 | 1909(M42).07 | 東京至誠病院(勤), 東京市牛込区(杏), 大分県(杏) | | | | 死去 |
| 162 | 大貫セン (土田) | 1889(M22) | 大分 | 日医, 東女医 | 1909(M42).07 | 東京, 愛知, 大分, 伝染病研究所・東京市麹町区(杏) | マレー・ジョホール国スレンパン(開) | 死去(1918) | | |
| 163 | 山田タマヨ (善行寺) | 1885(M18) | 広島 | 東女医, 日医 | 1909(M42).12 | | | | 東京市小石川区 | |
| 164 | 鈴木マツエ (石川) | | 新潟 | 日医 | 1909(M42).12 | | 米国・フロリダ(開) | 死去(1917) | | |
| 165 | 江間 貞 | 1873(M06) | 愛知 | 日医 | 1909(M42).12 | 愛知県名古屋(杏) | | | | |
| 166 | 上山ちよふ (神山?) | | 岐阜 | 日医 | 1909(M42).12 | | 東京市荏原郡(開) | | 静岡県(浅間町) | |
| 167 | 長谷川まき (平尾) | 1883(M16) | 愛知 | 東女医 | 1910(M43).01 | | 東京至誠病院(勤) | 愛知県豊橋市(開) | 愛知県豊橋市 | |
| 168 | 片桐壽美 | | 富山 | 東医 | 1910(M43).02 | | | | 富山県上新川郡 | |
| 169 | 福井 良 | | 大阪 | 日医 | 1910(M43).03 | | | 東京市下谷区 | | 死去 |
| 170 | 森川志津へ (高浦) | 1889(M22) | 岐阜 | 日医 | 1910(M43).04 | 岐阜県海津郡(開) | 岐阜県海津郡(開) | 岐阜県海津郡(開) | 岐阜県海津郡(開) | |
| 171 | 中村ミヨシ (工藤) | | 東京(福岡) | | 1910(M43).05 | | | | | 死去 |
| 172 | 高田はつ | 1888(M21) | 富山 | 東女医 | 1910(M43).06 | | 石川県鳳至郡 | 石川県鳳至郡 | 石川県鳳至郡 | 死去 |
| 173 | 島倉マチ | 1888(M21) | 新潟 | 東女医 | 1910(M43).07 | | 千葉, 東京市外下落合 | 東京市 | 東京市外下落合 | |
| 174 | 大貫セツ (内田) | | 北海道 | 日医 | 1910(M43).07 | 東大小児科見学生, 婦人共立育児会病院(勤) | | | 東京市外上駒込 | |
| 175 | 蛭田満ん (町田) | 1882(M15) | 長野 | 東女医 | 1910(M43).07 | 婦人共立育児会病院(勤) | 東京至誠病院(勤) | 東京市外豊玉千駄ヶ谷(開) | 東京市外豊玉千駄ヶ谷(開) | |
| 176 | 下村よしえ (太田) | 1889(M22) | 滋賀 | 東女医 | 1910(M43).09 | | 兵庫県神戸市(勤) | 尼崎市 | | |
| 177 | 三輪田繁子 (長塩) | 1882(M15) | 岡山 | 東女医 | 1910(M43).09 | | 東京至誠病院・新宿病院(勤) | | 東京市麹町区 | |
| 178 | 菅沢 鶴 | 1878(M11) | 岡山 | 東女医 | 1910(M43).11 | | 岡山県上道郡(開) | | 大阪府大阪市 | |
| 179 | 吉見こう | 1888(M21) | 愛知 | 女医研, 東医, 日医 | 1910(M43).11 | 東京市衛生試験所, 明治堂眼科医院, 神田小川顕微鏡院 | 東京神田(夜間開), 順天堂医院 | | 静岡県浜松市(開) | 死去 |
| 180 | 本多フジノ (堀) | | 山口 | 日医 | 1910(M43).11 | | | | | |
| 181 | 明山もと (中川) | 1885(M18) | 兵庫 | ベンシルバニア女子医大 | 1910(M43).11 | 同志社博愛病院, 佐伯病院(勤) | (京都府, 開) | (兵庫県多紀郡・開) | (兵庫県多紀郡・開) | (兵庫県多紀郡・開) |
| 182 | 曾根ミサホ (稻沢) | 1885(M18) | 岩手 | ベンシルバニア女子医大 | 1910(M43).11 | 東京府豊玉千駄ヶ谷(開) | (青森) | 日赤巡回医療団医師(福岡) | (福岡県久留米市・開) | 東京府 |
| 183 | 梅林かなへ (三橋) | | 静岡 | 日医 | 1911(M44).01 | | | 静岡県浜松市 | (静岡県浜松市) | |
| 184 | 中山たま | | 兵庫 | 関医, 日医 | 1911(M44).01 | 東大小児科傍観生 | 兵庫県神戸市(開) | (兵庫県神戸市) | 兵庫県神戸市 | |
| 185 | 原 じつ | 1888(M21) | 長崎 | 東女医, 日医 | 1911(M44).02 | 東大小児科傍観生 | | | | |
| 186 | 風間たね | | 山梨 | 女医研, 日医 | 1911(M44).02 | | | 東京市麹町区(開) | 東京市麹町区(開) | |
| 187 | 北村いち (榎村) | | 愛知 | 東医 | 1911(M44).02 | | | | | |
| 188 | 杉原小マス | | 大阪 | 関医 | 1911(M44).02 | | 大阪市山形眼科(勤) | | | 死去(1938時点) |
| 189 | 上田佐穂 | 1877(M10) | 福井 | 東女医 | 1911(M44).02 | | 福井県福井市 | 福井県福井市 | 福井県福井市 | |
| 190 | 多川スミ (池内) | | 大阪(東京) | 日医 | 1911(M44).03 | 東大小児科傍観生 | 東京市芝区(開), 為替貯金局医務 | | | |
| 191 | 秋月 馬 (小松) | 1889(M22) | 高知 | 東医 | 1911(M44).04 | 婦人共立育児会病院(勤) | | 東京市(開) | (東京市赤坂区・開) | |
| 192 | 山中 貞 | | 大阪 | 関医, 日医 | 1911(M44).04 | | 大阪難波病院(勤) | 死去(1918) | | |
| 193 | 木村すみ | 1889(M22), 86杏 | 愛知 | 東医, 日医 | 1911(M44).05 | 東大小児科(看護婦待遇) | 東京医専, 婦人共立育児会病院(勤), 愛知県名古屋(開) | 東京小石川中島医院(勤) | 東京市麹町区 | |
| 194 | 今井みよ多 (諏訪) | 1883(M16) | 山形 | 東女医 | 1911(M44).05 | | | | 山形県飽波郡 | |
| 195 | 根来とし | 1886(M19) | 和歌山 | 東女医 | 1911(M44).05 | | 和歌山市神田病院(勤) | | 和歌山県有田郡 | |
| 196 | 土井チカ (副島) | | 佐賀 | 日医 | 1911(M44).05 | | | | 福岡県福岡市 | |
| 197 | 大石胖賀 | 1887(M20) | 島根 | 東女医 | 1911(M44).06 | | 島根県三野郡(開) | | (島根県那賀郡) | |

| | 氏名 | 生年 | 本籍地 | 出身校 | 登録年月 | 明治年間 | 1914(大正3)年 | 1920(大正9)年 | 1930(昭和5)年 | 1937(昭和12)年 |
|-----|------------------------|------------------------|-----|-------------|--------------|----------------|-------------------|------------------|----------------|-------------|
| 198 | 篠田志げを | | 岐阜 | 日医 | 1911(M44).06 | | | | 岐阜県岐阜市 | 死去 |
| 199 | 加治登よ (浅井) | | 岐阜 | 東医 | 1911(M44).06 | | 婦人共立育児会 病院(勤) | 京都府下伏見 | | |
| 200 | 望月なを江 | | 山梨 | 日医 | 1911(M44).06 | | 山梨県甲府市 | 山梨県甲府市 | 山梨県甲府市 | |
| 201 | 出月た可を | | 山梨 | 日医 | 1911(M44).06 | | 東京病院(勤) | | (山梨県甲府市) | |
| 202 | 露木イシ | | 徳島 | 日医 | 1911(M44).07 | | 大阪毎日新聞巡 回診療 | | | 死去 |
| 203 | 渡辺コマン (藤野) | | 奈良 | 日医 | 1911(M44).07 | | | 兵庫県神戸市 (1916) | | |
| 204 | 亀井カツエ (亀中?) | | 香川 | | 1911(M44).07 | | 香川県綾歌郡 (開) | 香川県綾歌郡 (開) | 香川県綾歌郡 (開) | |
| 205 | 金倉トク | 1887(M20) | 香川 | 東女医 | 1911(M44).08 | | 浜松市馬淵病院 (勤) | 香川県高松市 (開) | 香川県高松市 (開) | |
| 206 | 大島ミサヲ (津田) | 1887(M20) | 北海道 | 東女医, 日 医 | 1911(M44).08 | | | | (東京市牛込区) | |
| 207 | 歌島キヨ | | 広島 | | 1911(M44).08 | | (広島県安佐郡・ 開) | 広島県賀茂郡 (開) | 広島県宮島町 (開) | |
| 208 | 坪村マサエ | | 奈良県 | 関医, 日医 | 1911(M44).08 | | 神戸市三浦病院 (勤) | | 奈良県奈良市 (開) | |
| 209 | 井田ツモ | 1882(M15) | 佐賀 | 東女医 | 1911(M44).09 | | 静岡市多々良病 院(勤) | 佐賀県(開) | | |
| 210 | 戸川きん | 1886(M19) | 茨城 | 東女医 | 1911(M44).09 | | 朝鮮総督府嘱託 医 | 朝鮮・京城 | 朝鮮・京城 | |
| 211 | 佐々木マサヨ (二葉)◇ | 1885(M18) | 広島 | 関医 | 1911(M44).09 | 大阪佐々木医院 (勤) | 大阪府岸和田市 (開) | 大阪府大阪市 (開) | 大阪府大阪市 | |
| 212 | 尾崎マサノ | 1891(M24) | 愛媛 | 東女医 | 1911(M44).10 | | 愛知県喜多郡 (開) | 愛知県喜多郡 (開) | 愛知県喜多郡 (開) | |
| 213 | 仁藤つや | 1888(M21) | 静岡 | 東女医 | 1911(M44).10 | | 静岡県白土郡 | | 静岡県富士郡 | 死去 |
| 214 | 志賀ミエ | 1880(M13) | 東京 | 東医, 日医 | 1911(M44).11 | 栃木県宇都宮市 (開) | 栃木県宇都宮市 (開) | 栃木県宇都宮市 (開) | 栃木県宇都宮市 (開) | |
| 215 | 石田ヲキノ (佐々木) | 1890(M23) | 秋田 | 東女医 | 1911(M44).11 | | 東京至誠病院 (勤) | (愛知県望月医 院(勤)) | (群馬県高崎市) | 死去 |
| 216 | 高橋イシ (渡辺) | 1890(M23) 杏 | 新潟 | 東女医 | 1911(M44).11 | | 新潟県長岡市 (開) | 新潟県長岡市 (開) | 新潟県新潟市 | |
| 217 | 潮 エイ | | 広島 | | 1911(M44).12 | | 岡山県備後郡 | | 北海道十勝郡 | 死去 |
| 218 | 新保小春 | 1889(M22) | 岡山 | 東女医 | 1911(M44).12 | 東大小児科傍観 生 | 岡山県岡山市 (開) | | 兵庫県武庫郡 (開) | |
| 219 | 荒川しず | 1886(M19) | 愛知 | 東女医 | 1911(M44).12 | | 婦人共立育児会 病院(勤) | 愛知県名古屋 市 | | |
| 220 | 尾崎千登世 | | 岡山 | | 1911(M44).12 | | 大阪市松本病院 (勤) | | | |
| 221 | 庄可ひさよ | | 山形 | | 1911(M44).12 | | | | | 死去 |
| 222 | 福田ミキ (瀧口) | 1889(M22) | 広島 | 東女医 | 1911(M44).12 | | | 東京市(開) | 東京市麹町区 | |
| 223 | 宮崎露子 (片桐) (岸本?)◎ | | 福岡 | 東女医 | 1911(M44).12 | | | | 福岡県遠賀郡 | |
| 224 | 古賀サヨ | | 佐賀 | 日医 | 1912(M45).02 | | | | | |
| 225 | 藤田シツ | | 徳島 | 東女医 | 1912(M45).02 | | 東京医学講習所 (勤) | 東京府北豊島郡 巢鴨(開) | 東京府北豊島郡 巢鴨 | |
| 226 | 菅志津勢 (水谷) | 1883(M16) | 岡山 | 東女医 | 1912(M45).02 | | | | 東京府下北沢 | |
| 227 | 倉田ミね吉 | | 長野 | 東女医 | 1912(M45).02 | | 長野県筑摩郡西 沢医院(勤) | | | |
| 228 | 山田ヌイ | | 秋田 | | 1912(M45).03 | | 新潟市高橋医院 (勤) | 秋田県秋田市 | (秋田県秋田市) | 死去 |
| 229 | 棕木マツ | | 島根 | 東女医 | 1912(M45).04 | | 島根県美濃郡 | | | |
| 230 | 大沢すゑ (清水) | | 静岡 | 東女医 | 1912(M45).05 | | | 静岡県新居町 | | |
| 231 | 財前イト (三上) | | 埼玉 | 日医 | 1912(M45).05 | | | | | |
| 232 | 沢村うめ (浜村?) | | 静岡 | 日医 | 1912(M45).05 | | | | | |
| 233 | 綾井章江 (種坂) | 1887(M20) | 愛媛 | 東女医, 日 医 | 1912(M45).06 | | | | | |
| 234 | 永田あい | | 兵庫 | 東女医 | 1912(M45).07 | | 兵庫県飾磨郡 | 兵庫県飾磨郡 | 兵庫県飾磨郡 | |
| 235 | 松田はつ (米山) | | 静岡 | 東女医 | 1912(M45).07 | | 東京至誠病院 (勤) | 静岡県沼津市 (開) | 静岡県沼津市 (開) | |
| 236 | 木俣はま (三浦) | 1888(M21) | 長野 | 東女医 | 1912(M45).07 | | | | 東京府下中野町 | |
| 237 | 松木かつ (小林) | | 兵庫 | 東女医 | 1912(M45).07 | | | | 東京市芝区 | |
| 238 | 今村ちよ | | 石川 | 東女医 | 1912(M45).07 | | 救世軍病院(勤) | 死去(1918) | | |
| 239 | 大岸 鹿 | 1879 (M12), 81 杏 | 石川 | 東女医 | 1912(M45).07 | 金沢病院(勤) | | | 石川県石川郡 | |

| | 『官報』に掲載されて いない者 | 本籍地 | 出身校 | 「多川名簿」 登録年 | 備 考 |
|---|--------------------|-----|-----|---------------|---------------------|
| 1 | 筑紫イト | 福岡 | 不明 | 1892(M25).04 | 1892.04 薬剤師として官報に登録 |
| 2 | 斎藤かね | 静岡 | 済生 | 1893(M26).02 | |

考 察

本資料から、読みとれることを二、三記しておきたい。

登録時の年齢

本資料には、確認できる範囲で個々の生年を記入した。資料によって生年が異なるものもあるが、明治女医の約7割の生年を知ることができた。それに基づいて医籍登録された年齢を調べると、最年少が19才、最年長はアメリカ人女医エスティー・ナグスの62才を除くと42才となる。登録時の年齢をグラフ化すると図1のようになる。

これを見ると、最も多いのが25才での登録である。また19才から21才までのものも24名に上り、学業に秀でた早熟な女子の存在を知ることができる。1900（明治33）年の国の人口動態統計調査によると、女子の平均結婚年齢がほぼ22才であるから⁴⁾、明治女医の多くは当時の女性の結婚年齢とさほど隔たることなく医師の資格を得ていることがわかる。明治女医には荻野吟子や高橋瑞など、結婚や他の職業を経て苦学して女医となったイメージも強いが、保護者の許可と支援の下で、若くして医師になった者も多かったことが想定できる。

なお本資料による女医の医籍登録の平均年齢は26.02才であるが、1885（明治18）年から明治末

年までを10年ごとの時期に区分して登録時の年齢を見ると、その平均年齢は1期（明治18年～27年）が25.11才、2期（明治28年～37年）26.75才、3期（明治38年～45年）が26.22才と、ほとんど変化はない⁵⁾。

出身校

明治女医が医学を学んだ学校として記録に残るものは国内13校、国外7校が挙げられる。国内では、3番目に医籍登録された高橋瑞の入学が端緒となった済生学舎の女子学生受け入れが、女医養成を大きく後押しした。ここには判明するだけで73名の明治女医が在籍したが、1900（明治33）年に突然女子の入学が停止され、翌年には在籍の女子学生も放校された⁶⁾。そのため東京では東京女医学校、女子医学研修所、東京医学校、そして日本医学校が済生学舎の後を承けて女医養成を担うことになった。一方、大阪では1895（明治28）年創立の大阪慈恵医院医学校と1902（明治35）年創立の関西医学院が女子医学生の勉学の間であった。

しかし女子医学研修所、東京医学校、大阪慈恵医院医学校、関西医学院はさらに統廃合されたため⁷⁾、明治女医の中には、複数の学校で履修した者も多い。そこには緒についたばかりの女子医学教育の不安定さを見ることができ、しかしまた、学校の存続とは関係なく数校を転校している例も数多くあり、自らにより適した勉学の間を求

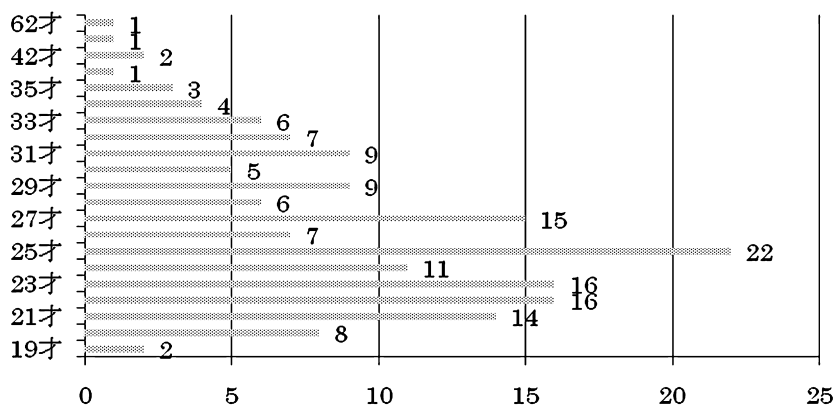


図1 登録時年齢表（単位：人）

表2 学校別者在籍者数一覧

| | 在籍人数 | 最終履修者数 |
|--------------|------|--------|
| 済生学舎 | 73 | 62 |
| 日本医学校 | 59 | 58 |
| 東京女医学校 | 47 | 38 |
| 大阪慈恵医院医学校 | 22 | 12 |
| 女子医学研修所 | 22 | 6 |
| 関西医学院 | 15 | 8 |
| 東京医学校 | 14 | 8 |
| 好寿院 | 2 | 2 |
| 成医会 | 1 | 1 |
| 東亜医学校 | 1 | 1 |
| 医学温習会 | * | * |
| 東京医師倶楽部医学講習会 | * | * |
| 中央医学研修所 | * | * |
| 国外医学校 | 7 | 7 |

* 国外の医学校は以下の通りである。

カリフォルニア大学医学部
 クリーブランド医科大学
 ミシガン大学医学部
 クリーブランドホメオパシー医学校
 ペンシルバニア女子医科大学
 マールブルク大学医学部
 (ただし博士号取得のための留学)
 無記名 1校

* 最終履修者数は、該当学校で最後に学び、医術開業試験に合格したと見られる者の概数である。

める姿勢と医術開業試験合格のための苦労が窺われる。在籍校が不明のものも多いが、確認できる範囲の学校別在籍者数一覧を表2に挙げる。なお東京医師倶楽部医学講習会と中央医学研修所は、女子学生が学んだという記録はあるが具体的な状況は不明である。

活動地について

表3は、基礎資料から、明治年間から1920(大正9)年までの女医の活動地域を都道府県、国別にまとめたものである。明治末年までには、青森、和歌山、鳥取、徳島、鹿児島、沖縄を除く各道府県に女医の足跡が記されていることがわかる。その後1920(大正9)年までには、青森、和歌山にも女医の存在が確かめられる。これらの活動地は調査時の一時的な滞在の可能性もあるが、東京、大阪などで医師の資格を得た後、出身地域に戻つ

たり、勉学の地を離れて新たな場所で働く女医が多数存在し、女医の活動がほぼ全国に広がっていたと理解してよいだろう。

活動地は道府県別に見ると東京が圧倒的に多く、大阪、神奈川、愛知、兵庫が続く。また東京、大阪では、東京市、大阪市の中心部が多いことが知られる。大都市では女医を受容する層が厚く、また勉学の機会も多いため女医が都市に集中することは想像に難くないが、注目されるのは兵庫県と神奈川県である。兵庫県の女医の多くは神戸を中心として活動していたようだが、『官報』『日本杏林要覧』から、明治30年代に外国人女医が3名存在し、ともに神戸市に滞在していたことがわかる。ここから推すと、神戸はとくに女医を受容する素地が整っていた都市であったといえよう。外国人女医の存在は確認できないが、神奈川県も開港地の横浜市を擁し同様の条件であったと思われる。

また女医の動向から、明治女医の目が海外にも向けられていたことがわかる。宇良田唯、福井繁はドイツに留学し博士号を得て帰国した⁸⁾。また中国、朝鮮(1910年より日本植民地)、アメリカ、ジョホール国(マレー半島)、そして1922(大正11)年にはシンガポールに足跡を残した女医も存在した。ごく少数とはいえ、彼女らはひとたび医師の資格を取得した後、さらに活動の場を広げることを求めたのである。

活動期間

基礎資料には判明する限り廃業や死去の年も記した。それによれば、1914(大正3)年までの廃業・死去は10名、1937(昭和12)年までの廃業・死去は50名である。『日本女医会雑誌』の名簿、状況欄は年次が進むにつれて行方不明者が増えているため、これらの数は最少の数であるが、残りの女医が医師としての活動を続けていたとすれば、その活動期間はかなり長く継続的なものであったことが推察される。医師は明治期においていち早く社会に認知された女性の専門職の一つであったため、他の専門職との比較が出来ないが、職業としての定着率は非常に高く、活動期間も長

表3 明治女医活動地一覧（都道府県別）

| | 明治 年間 | 1914 (T3)年 | 1920 (T9)年 | | 明治 年間 | 1914 (T3)年 | 1920 (T9)年 | | 明治 年間 | 1914 (T3)年 | 1920 (T9)年 |
|-----|----------|---------------|---------------|-----|----------|---------------|---------------|--------|----------|---------------|---------------|
| 北海道 | 3 | 2 | 1 | 山梨 | 2 | 1 | 1 | 徳島 | 0 | 0 | 0 |
| 青森 | 0 | 1 | 0 | 長野 | 1 | 1 | 0 | 香川 | 3 | 1 | 3 |
| 岩手 | 1 | 0 | 0 | 岐阜 | 4 | 3 | 1 | 愛媛 | 1 | 0 | 0 |
| 宮城 | 2 | 0 | 0 | 静岡 | 3 | 1 | 3 | 高知 | 1 | 0 | 0 |
| 秋田 | 0 | 0 | 1 | 愛知 | 7 | 10 | 5 | | | | |
| 山形 | 1 | 2 | 1 | | | | | 福岡 | 2 | 1 | 3 |
| 福島 | 6 | 1 | 0 | 京都 | 5 | 4 | 3 | 佐賀 | 1 | 0 | 1 |
| | | | | 大阪 | 13 | 15 | 1 | 長崎 | 1 | 0 | 0 |
| 茨城 | 3 | 2 | 1 | 滋賀 | 2 | 1 | 2 | 熊本 | 1 | 1 | 0 |
| 栃木 | 2 | 1 | 1 | 兵庫 | 10 | 10 | 9 | 宮崎 | 1 | 1 | 0 |
| 群馬 | 2 | 2 | 2 | 奈良 | 2 | 0 | 0 | 鹿児島 | 0 | 0 | 0 |
| 埼玉 | 4 | 3 | 1 | 和歌山 | 0 | 2 | 0 | 沖縄 | 0 | 0 | 0 |
| 千葉 | 3 | 2 | 0 | 三重 | 1 | 2 | 2 | | | | |
| 東京 | 47 | 33 | 17 | | | | | 米国 | 0 | 1 | 0 |
| 神奈川 | 12 | 8 | 2 | 鳥取 | 0 | 0 | 0 | ドイツ | 2 | 0 | 0 |
| | | | | 島根 | 2 | 3 | 0 | 中国 | 1 | 4 | 2 |
| 新潟 | 2 | 2 | 1 | 岡山 | 3 | 5 | 0 | 朝鮮 | 2 | 5 | 2 |
| 富山 | 2 | 0 | 0 | 広島 | 5 | 3 | 2 | ジョホール国 | 0 | 1 | 0 |
| 石川 | 2 | 2 | 3 | 山口 | 4 | 2 | 1 | | | | |
| 福井 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | |

かったものと思われる。

以上のように、本資料から、明治女医の氏名と活動地などの概要を知ることができるが、それでは明治女医が具体的に「どの様に活動したか」という点については、伝記の存在する著名な女医以外は明らかではない。しかし『日本女医会雑誌』によれば、大正末年には女医の数は概数で1200名を超えるとあり⁹⁾、明治女医の存在が、さらに多くの女性を医師の仕事へと導いたことは間違いない。

先の日本医史学会総会での報告の後、筆者のもとに北海道で長く開業した間宮八重に関する詳しい文献が寄せられたが¹⁰⁾、そこには地域医療に全力で立ち向かう女医の活動が示されている。明治、大正、昭和という激動した時代で生きた明治女医の足跡を綿密に検証することは非常に難しい。しかしそれは、はじめに述べたような歴史の

一面を明らかにするだけではなく、時代を超えて現代の女性のあり方にも関わる問題をも提示するはずである。

本資料は、なお未完のもので修正事項も多々あると思われるが、これを基礎的資料として、ぜひ地域や身近な明治女医の歴史を発掘していただきたいと願うものである。

付記. 本稿執筆にあたり、史料収集、閲覧に御高配下さいました東京女子医科大学大学史料室に深謝します。

文献および注

- 1) 『日本医史学雑誌』42巻2号, 254~255頁, 1996(平成8年)
- 2) 『日本女医会雑誌』第80号, 1937(昭和12年)
- 3) 日本杏林社編, 東京, 1909(明治42年)
- 4) 「歴史地域統計データ」2 明治期データ「明治33

年日本帝国人口動態統計，第三表：妻ノ年令ニ依リ分カタル結婚」（筑波大学大学院生命環境科学研究科空間情報科学分野DB）より算出。なお速水融「明治前期統計にみる有配偶率と平均結婚年齢」〈『三田学会雑誌』79-3，1～3頁，一九七九（昭和54年）〉では，35才までに結婚した者に対象を絞り平均結婚年齢を算出し，同時期の女子の平均結婚年齢を22.4才とする。ただし，平均結婚年齢は東日本と西日本ではかなりの差があることも注記する。

5) 明治の女子医学教育は，済生学舎時代とそれ以降に二分できるが，ここでは時代変化と女医志願者の

関係を見るために10年単位に区切って考えた。

- 6) 唐沢信安『済生学舎と長谷川泰』105～106頁，東京，日本醫事新報社1996（平成8年）
- 7) 唐沢信安，前掲書，147頁～179頁
- 8) Yuko Misaki（三崎裕子）：Tadako Urata und ihre Zeit. alma mater philippina (Marburger Universitätsbund E.V.) Sommersemester 1998: 15-20, 1998
- 9) 『日本女医会雑誌』25号，23頁，1925（大正14年）
- 10) 宮下舜一，伊藤保蔵「異色の女医間宮八重の航跡」[I][II]，『北海道医報』第980号・981号，24頁～27頁，20頁～23頁，2001（平成13年）